

服を袋へ




工場火災などで漏れ出した有害な薬品や化学物質が衣服に付着することがあります。その際は、消防隊員らの指示に従い、化学物質などで汚染された服を脱ぎ、袋に入れて処分します。脱いだ服は勝手に処分すると危険です。その後、服の代わりに用意されたポンチョを着ます。

ポンチョを着る

災害対応ピクトグラム

速やかな避難・救助へ

歩いてこちらへ



自力で移動できる被災者に対して、施設や店の責任者、消防隊員らが、どこへ避難したらよいか誘導します。あわてず冷静に指示に従いましょう。

タグをつける



災害時、けがや病気の程度によって治療の優先順位を決める「トリアージ」が行われます。このピクトグラムのある場所でその順位を示す「タグ」を付けます。

災害対応ピクトグラム

いざという時 指示に従って 行動しよう!



「ピクトグラム」は簡単な形や絵で施設の場所や注意する行動などを表した「サイン」です。国や言葉、年齢、性別などの違いにかかわらず、「一目見ただけで大切な情報が分かります。身近なものでは、非常口やトイレ、車いすのマークはピクトグラムの一つです。

岡山市消防局と川崎医療福祉大(倉敷市松島)が共同で災害時の避難誘導などに使うピクトグラムを開発しました。「伝わりやすい」と評判を呼び、横浜市や京都市など全国34の自治体(6月18日現在)に広がっています。(中川純) 2面につづく

写真はデザインを担当した川崎医療福祉大・医療福祉デザイン学科の学生

災害現場での経験をもとに開発

災害対応ピクトグラムの開発は、マンション火災が起きたときの岡山市中消防署(同市中区今在家)の渡邊敏規特別救助隊長の経験がきっかけでした。現場では、耳の不自由な人に避難の指示がなかなか伝わらず、困ったそうです。「非常時にとるべき行動が簡単に伝わるものを」と、渡邊さんは母校・川崎医療福祉大

に相談し、医療福祉デザイン学科の学生らと2016年から開発を始めました。実際に避難訓練などで使用し、同僚の消防隊員や訓練に参加した市民らに分かりやすいかどうかアンケートで聞きました。その結果を基に、何度も改良を重ね、今年、現在のデザインになりました。

指示を伝わりやすく
岡山市中消防署
渡邊特別救助隊長

もしものときは、1分1秒が大切です。避難指示などが伝わりやすいピクトグラムがあると、避難などにかかる時間が短くなり、助かる可能性が高くなります。



自立つようにデザイン
川崎医療福祉大・医療福祉デザイン学科

災害現場で遠くから見ても自立し、誰にでも分かるデザインになるように工夫しました。例えば、落ち着いた行動が必要なものには青色を、素早い行動を促したいものには、人に注意を呼び掛ける黄色を使っています。



「歩いてこちらへ」は、昨年、岡山市内の商業施設で起きた火災のときに使い、スムーズな避難につながりました。